

悪夢の五時五十六分

堀之内中学校 二年

青木

勉

十月二十三日五時五十六分、その時ぼくは

塾にいました。塾に着いたのが五時五十分、

着いてすぐの出来事でした。それから二時間

ぐらいしても、むかえが来ないので、塾の先

生が送ってくれました。家までは行けなかつ

たので、集落の入り口のところでおろしても

らい、そこにちようど祖父がいたので、いっ

しよに歩いて帰りました。そしてらうちの前

に集落の人が集まっていた。兄と姉は、

小千谷に行っていたのでしばらく帰って来れ

ませんでした。父は中国に単身赴任していた

のでいませんでした。次の日からはいとこの

うちに泊まり、その翌日には兄と姉と父が帰

て来ました。

そんな大きな地震があつたにも分かるが、

僕の家族は全員無事でした。しかし、十一月

下旬に大きなことが起こりました。家のこわ

れたところを祖父が直しているとき、脚を

から落ちてしまっただのです。頭を強く打って
すぐ病院に運ばれました。手術をして一命を
とりとめたけど意識はありませんでした。何
日かたっても意識は戻らず、二週間後、その
ままかえらぬ人となりました。家族
はみんな悲しみました。ぼくはすごく悲しく
て、いっぱい泣いてしまいました。祖母は毎
日仏壇の前で泣いていました。

今回の地震を通してわがったことは人の
優しさです。もし、塾の先生に送ってもら
なければ家に帰ることが出来ませんでした。

さらに先生にはおにぎりもいたいただきました。
言葉では言えない気持ちうれしかったです。
近所の方にはドーナツとコーヒをいただきました。
ました。お腹が空いていたのでかなりうれし
かったです。やはり人に優しくしてもらって
うれしいので、ぼくも地震後から今まで以
上の人に優しくできようにしたいと考え
るようになりました。